

2024/04/14

## 説教：義認：野生のオリーブの木と自然のオリーブの木

OIC の皆さん、お早うございます。

JUSTIFICATION (義認) とは、イエスの十字架上の死に基づいて、永遠の赦しを買うために、私たちはもはや罪がなく、義とされるという神の宣言です。

私たちの義認は神の計画に従っています： 聖書に啓示されているように、「時が始まる前」、「時の中で」、「時が過ぎ去った後」です。ここ数カ月、ローマ書のメッセージは、時が始まる前から、私たちクリスチャンは“選ばれた者”であることを確信できると教えています。

ローマ書はまた、宇宙の主権王である神が、すべての人の救いをみことばに委ね、選ばれた者である教会の手に委ねられたと宣言しています。

今日は、パウロが過去における神の行動と、将来のユダヤ民族（すなわち、自然のオリーブの木）と異邦人クリスチャン（すなわち、野生のオリーブの枝）に対する神の計画をどのように描写しているのか、さらに詳しく見ていくことにしましょう。

パウロはここで、主が「国や集団」をどのように扱われるかを開示していますが、私たち個人、特に現在の異邦人クリスチャンにも適用できる節があることに注意してください。

いつものように、ローマ人への手紙 11 章にある節を聖書の他の節と相互参照し、パウロの発言の多くを説明します。教会における最大の異端は、聖書を聖書で証明することのない神学や教理です。

ですから、神の真理を確信するためのつながりを作るために、どうか我慢してください。もし私が聖書のある箇所から別の箇所へとさまよっているようであれば、どうか一緒にさまよってください。ある聖句から別の聖句へのつながりを一緒に考えてください。私のメッセージを、神の御言葉をめぐる大冒険として見てください。

4 月 4 日の私のメッセージは、使徒パウロの言葉で締めくくりました。私はこの聖句の釈義に同意し、より多くの意味を引き出すために、アンプリファイド・バイブルから引用しました。(ローマ 11 章 16 節/AMP) : 「<sup>16</sup> 最初の部分 (初穂として捧げられた生地) が聖なるものであれば、その全体も聖なるものであり、根 (アブラハム、家長たち) が聖なるものであれば、枝 (イスラエル人) も聖なるものである。」

パウロは続けて、神は その社会あるいはユダヤ民族の中に、忠実なユダヤ人のレムナン ト (残された者) を 保たれることを明らかにしました。さて、パウロは私たちを信仰の父、アブラハムへと導きます。アブラハムは、彼の老いた肉体から創造された、イスラ

エルとの古い信仰の契約における最初の家長であるだけでなく、キリストにおける信仰の父でもあります。

ユダヤ人も異邦人も、すべてのクリスチャンは信仰の賜物を受けます。イエスの犠牲に対する彼らの信頼が、帰属させられた義となるのです。私たちはこのことを(ローマ 4 章 3 節/AMP)で学びました。：「聖書には何と書いてあるだろうか。「アブラハムは神を信じた (信頼した、頼りにした)。」

(ローマ 11 章 16 節) の生地最初の部分はイスラエル民族の原型であり、その根はアブラハムです。つまり、イスラエル民族は集団として聖なる存在です。このことは、ユダヤ人や異邦人が信仰によって義とされるための「個人的な」信仰を取り消すものではありません。しかし、ユダヤ民族に対する神の御心と、ユダヤ民族という集団の中に信仰のレムナントを保って おられることを明らかにしているのです。

さて、パウロは(Romans 11 章 17 - 18 節)で、異邦人クリスチャンをグループとして取り上げています。：「<sup>17</sup>もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、<sup>18</sup>あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。」

異邦人は野生のオリーブ {木} でした。イエスを信じる者たちは、その中に接ぎ木された {父アブラハムの信仰に忠実なユダヤ人の枝}。クリスチャン信者は、父祖 アブラハムに対する神の約束の一部分に過ぎないことを忘れてはいけません。ユダヤのオリーブの木と野生のオリーブの木が並んで立っているのを見るとき、神は時の上におられるのだと、心を伸ばして考えてみましょう。神がアダムとエバという家族を創造して以来、神は人類との関係において家族を無視されたことはありません。救いは個人への贈り物ですが、神は信仰の家族を、最初のオリーブの木、信仰の父アブラハムとつながっていると見ておられます。

パウロが(ローマ 4 章 3 節)で教えているように「聖書は何と書いていますか。「それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義と見なされた。」とあります。したがって、キリストを信じる私たちの信仰の根源は、(創世記 15 章 4 - 6 節)におけるアブラハムへの神の約束です。：「<sup>4</sup>すると、主のことばが彼に臨み、こう仰せられた。「その者があなたの跡を継いでではない。ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない。」<sup>5</sup>そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」<sup>6</sup>彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」 1 世紀に異邦人クリスチャンの数が激増し、現代まで続いていることは、数え上げれば星の数ほどあります。しかし、先週の「レムナント (残された者) 」で見たように、神はユダヤ人を見限られたわけではありません！

アブラハムが持っていたような信仰の賜物は、今や異邦人にもユダヤ人クリスチャンにも与えられています。キリストを持たないユダヤ人は非難されるべき存在ですが、私たち

クリスチャンの信仰は、**神の約束を 果たすための贈り物で あり、アブラハムの信仰に 応えるものです。 私たち異邦人クリスチャンは、そのような星の数々なのです！**

しかし、野生の枝である私たちは、元のオリーブの木に接ぎ木されました。パウロは(ローマ 11 章 18 節)でこう言っています。：「あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根{アブラハムの信}をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。」言い換えれば、オリーブの木の豊かな根、アブラハムと同じ信仰の賜物が、私たちクリスチャンを支えているのです。

(ローマ 11 章 19-20 節)：「<sup>19</sup> 枝が折られたのは、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。<sup>20</sup> そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。」

### 教訓その 1

クリスチャンの心の中で最も深刻な罪は不信仰です。 私たちがイエスのために聖なる人生を生きるために闘う、肉の世俗的な欲望との戦いにおいて、肉に従って父アブラハムの家族である自然なオリーブの木の枝を切り落としたのは不信仰であったことを、私たちは最もよく覚えています。 これによって、地上のユダヤ民族は、イエスを受け入れるすべての人に与えるために来られた豊かないのちから取り去られたのです。それは彼らのメシア・イエスに対する不信仰でした。 私たち異邦人も同じように、不信仰という魂の癌に冒されています。 私たちの魂の偉大な医師であるイエスは、そのガンを癒すために謙虚な祈りに答えてくださいます。

パウロは 上の節で、異邦人クリスチャンを戒め、警告しています。(ローマ 11 章 20)：「そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。」

驕る ことなく、**恐れ**なさい。 今、皆さんにお願いするのは、皆さんが神の言葉を正しく理解できるようにするためです： OIC の皆さん、どう感じますか？

“恐れ”という言葉を理解するためには、ギリシャ語で書かれた新約聖書の原典を見るのが重要だと思います。

(ローマ 11 章 20 節/MOUNCE)を読みましょう。：「その通りだ。彼らは不信仰のゆえに断ち切られたのであり、あなた方は信仰によって立っている。高慢にならず、**畏敬の念**を持って立ちなさい。」

神は、聖霊によってパウロを鼓舞して、私たちが救いのために選ばれた者であることを確信させ、それから私たちに、常に“恐れ”の中で生きるように言われたのではありません。これではまるで、あなたが家のスリッパを履いている間に、誰かが「玄関」に敷いてある敷物を足元から引き剥がすようなものです！

この聖句と *phobeo* という言葉の重要性は、**積義の冒険を必要とします**。恐れ（ギリシャ語で *phobeo*）という言葉が聖書で使われている箇所をいくつか見てみましょう。

（エペソ 5 章 33 節）において、*phobeo* は「尊敬する」と訳されています：「<sup>33</sup>それはそうとして、あなたがたも、おのおの自分の妻を自分と同様に愛しなさい。妻もまた自分の夫を敬いなさい。」

確かに、パウロがエペソの信徒への手紙で述べているように、クリスチャンの結婚とは、キリストの霊が両者の内側にあり、両者の間にある愛の関係である。従って、この文脈では *phobeo*（恐れ）を尊敬と訳するのが正しいです。

*phobeo* のような強力な単語、*phobeo* は、正しい積義や解釈のために使われる文脈に大きく左右されます。（ローマ 11 章 20 節/NASB）の *phobeo* *phobeo* は *phobeo* ですが、（ローマ人 11 章 20 節/MOUNCE）の *phobeo* *phobeo* は *phobeo* であり、どちらも尊敬とは言いません。このローマ人への手紙 11 章では、たとえ地が創られる前から神に選ばれていたキリスト者であっても、*phobeo* の重さは英語の *fear*（恐れ）よりも重いはずです。この文脈は、異邦人信者を戒めるためのものです：「うぬぼれるな」（NASB）、あるいは「誇るな」（MOUNCE）。誠実なクリスチャンには、自分より神に好かれていない人を見下す罪深さがまだ十分に残っています。クリスチャンがこのような考えを許す時、信仰は神からの無償の賜物であることを忘れてしまいます。したがって、ユダヤ人との罪深い比較がクリスチャンの心の中にあるときには、基本的な *phobeo* を感じる必要があるかもしれません。これは、常に *phobeo* で生きなさいということではありませんが、このような考え方を罪深くないと許すクリスチャンは、聖霊を悲しませ、自分とイエスとの間に隔たりを置くことになります。このような考え方は、妻が夫に対して抱く *phobeo*、尊敬 *phobeo* よりも、より強い意味の *phobeo*、恐れ *phobeo* を必要とします。

## 教訓その 2

*phobeo* のような強力に詰め込まれた言葉、*phobeo* は、正しい積義や解釈のために使われる文脈に大きく左右されます。私は、聖書における *phobeo* の用法を、「尊敬」から「神を怒らせることへの恐れ」まで例示しました。その“スペクトル”あるいは“範囲”の中間にありますが、“畏怖”という意味です。このレベルの *phobeo* は、自然なオリーブの木に接ぎ木されたことにうぬぼれることなく、感謝する異邦人クリスチャンのためのものでしょう。畏敬の念とは、神の愛に驕ることなく、神の愛を感じ、信頼することができる敬虔な *phobeo* です。（1 コリント 1 章 31 節）にこう書かれていますように：“誇る者は、主にあって誇れ。”

（ローマ 11.21）パウロの次の言葉は、このことを裏付けています：「もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう」

自然のオリーブの枝（ユダヤ人）が不信仰のために断ち切られたことを覚えている。

思い上がったキリスト教とは、矛盾した、無意味な考えや概念です。私たちの主であり救い主であるイエスの前で、私たちの**不信仰**を真剣に受け止めないことは、恵みと憐れみの神に対して、すべての信者を危険な立場に置くこととなります。

**(ローマ 11 章 22 節)** : 「見てごらん下さい。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。」

パウロが、私たちが **主の優しさのうちに歩み続ける** ことを強調していることに注目してください。これは、前にも説いたように、神に選ばれた子としてクリスチャン生活を送り、イエスを通して私たちに与えられる主の優しさに頼ることです。私たちは、十字架上で完成されたイエスの御業に安住し、自分の力ではなく、イエスの義と力によって、イエスの近くを歩もうとするのです。神がキリストを通して私たちに与えてくださった能力や賜物から生じる傲慢な態度は、十字架につけなければなりません。

私たちはまた、キリストの霊が私たちのうちに指摘した**不信仰**を告白しなければなりません。クリスチャンが成熟するにつれて信仰が成長し、より多くの**信仰**を必要とすることは、**不信仰**と同じではありません。不信仰とは一般的に、あなたが個人的な救い主イエスから、聖書から、あるいは御霊の静かな声からすでに学んだことを疑うことです。

パウロは旧約聖書 (**イザヤ 59 章 20-21 節**) の預言者としての才能を信じ、(**ローマ 11 章 23-32 節**) でユダヤ人の将来の希望を語っています。(**ローマ 11 章 23-32 節**) : 「<sup>23</sup> 彼らであっても、もし**不信仰**を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わすことができるのです。<sup>24</sup> もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につながるのであれば、これらの栽培種のもものは、もっとたやすく自分の台木につがれるはずです。<sup>25</sup> 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、<sup>26</sup> こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりに。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬度を取り払う。{**イザヤ 59 章 20-21 節**}に記されているように」<sup>27</sup> これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」<sup>28</sup> 彼ら{ユダヤ人}は、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びによれば、先祖たちのゆえに、愛されている者なのです。<sup>29</sup> 神の賜物と召命とは変わることがありません。<sup>30</sup> ちょうどあなたがたが、かつては神に不従順であったが、今は、彼らの不従順のゆえに、あわれみを受けているのと同様に、<sup>31</sup> 彼らも、今は不従順になっていますが、それは、あなたがたの受けたあわれみによって、今や、彼ら自身もあわれみを受けるためなのです。<sup>32</sup> なぜなら、神は、すべての人をあわれもうとして、すべての人を不従順のうちに閉じ込められたからです。」

ユダヤ人の不従順の結果として異邦人が受けた憐れみは、彼らに対する主の将来の憐れみの扉を閉ざしたわけではありません。ユダヤ民族に対する神の**賜物と召命**がなくなるこ

とはないのです。神は、異邦人が満ち溢れた後に、ユダヤ人におけるアブラハムの信仰を成就されます。その時はまだ来ていませんが、(ローマ 11 章 26 節)にあるように、**すべてのイスラエルが救われる**のは、私たちが思っているよりも早いかもしれません。

聖書の箇所を文脈を無視して取り上げることは誤りです。しかし、ここでは神の性格と聖書の他の部分に基づいている原則のいくつかに言及しています。ローマ書 11 章は、ユダヤ人と異邦人という大きな文化グループに対する神の対処です。パウロは(ローマ 11 章 20 節)において、異邦人クリスチャンのグループ全体に対して、彼らが**自然のオリーブの木に接ぎ木された者**として傲慢である場合の**恐れ**について警告しています。

パウロは、聖霊が彼の手紙を読む一人ひとりの心を探り、ユダヤ人に対する「**驕りや 傲慢さ**」について、自分の立ち位置を確信する必要のある人々に語ってくださることを期待している。

同じように (ローマ 11 章 29 節) 「**神の賜物と召命とは変わることがありません。**」個々の信者に対する神の誠実さは、この節でも (ローマ 8 章 30 節) と一致していると見ることができます。：「**神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。**」

神の前に立つ国家とは異なり、夫々の人は亡くなった後、裁きを受けるために神の御前に立つこととなります。クリスチャンは報いを受け、ノンクリスチャンは非難を受けることとなります。従って、個人には (使徒 22. 14) **信仰を継続する責任**があることを強調しなければなりません。

神は、喜びや悲しみを乗り越えて、イエスの羊を守ろうとされるのを(ピリピ 1 章 6 節)で見ることが出来ます：「**あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを**完成**させてくださることを私は堅く信じているのです。**」だから、私たちクリスチャンは、自分の人生において神の召命を果たすという神の決められた御計画を知ること、力を注ぐことができると聖書は教えているのだと思います。問題は、いつものように、あなたがその呼びかけに喜んで耳を傾げるかどうかということです。

もう一つここに聖句があります。(ローマ 11 章 32 節)：「**なぜなら、神は、すべての人をあわれもうとして、すべての人を不従順のうちに閉じ込められたからです。**」この聖句は 人類に普遍的に適用されます。例えば、ある罪人にとって、人間的あるいは社会的な意味での最悪の罪が、取引相手を故意に騙すことであったとしたら、彼は神に **{完全に} 背く** こととなります。彼は大量殺人者、子供をレイプする人々、この罪深い世界の最も劣悪な者たちと共に地獄に墮とされるのです。ブルース牧師、それは私には理解できません。私たちクリスチャンは、すべての罪がイエスの十字架上の犠牲の上に成り立っていることを知っているのです、この真理をもっと神の視点で見ることができるともかもしれません。

ローマ 10 章 12 節にあるように、神は罪人が赦しを受けるために犯した罪に境界線を設けていません。(ローマ 10 章 12 節)：「**ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。**」

同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。」

近年、神は、イエスを呼び求める最も憎むべき罪人さえも赦すという神の偉大な恵みを世界に思い起こさせています。ISIS（イラクとシリアのイスラム国）の元テロリストが、中東でイエスに仕える現役のクリスチャンになっていることや、小指を失った元坂梅組の鈴木博之師のようなヤクザが福音主義キリスト教の伝道師になっていることを、国際メディアを通して世界中で知ることができます。

最も罪深い野生のオリーブの木の枝に、**義**が与えられます。今や**信仰**の自然なオリーブの木の家族に接ぎ木され、父アブラハムのような**信仰**の賜物が与えられている。古いクリスチャンの賛美歌「**神に栄光あれ**」にあるように：「イエスから恩赦を受けるその瞬間、真に信じる最も悪質な犯罪者」。(ローマ 11 章 33 - 36 節)：「<sup>33</sup> ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。<sup>34</sup> なぜなら、だれが主のみどころを知ったのですか。また、だれが主のご計画にあずかったのですか。<sup>35</sup> また、だれが、まず主に与えて報いを受けるのですか。<sup>36</sup> というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。」

## 教訓その 1

クリスチャンの心の中で最も深刻な罪は不信仰です。私たちがイエスのために聖なる人生を生きるために闘います、肉の世俗的な欲望との戦いにおいて、肉に従って父アブラハムの家族である自然なオリーブの木の枝を切り落としたのは不信仰であったことを、私たちは最もよく覚えています。これによって、地上のユダヤ民族は、イエスを受け入れるすべての人に与えるために来られた豊かないのちから取り去られたのです。それは彼らのメシア・イエスに対する不信仰でした。私たち異邦人も同じように、不信仰という魂の癌に冒されています。私たちの魂の偉大な医師であるイエスは、そのガンを癒すために謙虚な祈りに答えてくださいます。

## 教訓その 2

恐れのような強力で詰め込まれた言葉、*phobeo* は、正しい釈義や解釈のために使われる文脈に大きく左右されます。私は、聖書における *phobeo* の用法を、「尊敬」から「神を怒らせることへの恐れ」まで例示しました。その“スペクトル”あるいは“範囲”の間にあるのが、“畏怖”という意味です。このレベルの恐れは、自然なオリーブの木に接ぎ木されたことにうぬぼれることなく、感謝する異邦人クリスチャンのためのものでしょう。畏敬の念とは、神の愛に驕ることなく、神の愛を感じ、信頼することができる敬虔な恐れです。聖書（1 コリント 1 章 31 節）にこう書かれているように：“**誇る者は、主にあって誇れ。**”

私たちの偉大な神への畏敬の念を込めて歌いましょう。

( 礼拝チーム )

祈りましょう

## REFERENCES

**AMP** - Amplified Bible, Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

**NASB** - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995, 2020 by The Lockman Foundation. All rights reserved.